

2024年3月期第2四半期 決算説明資料

ロジスネクストのソリューションが
世界の物流を支えています

京都長岡京が本社の
総合物流機器メーカー



2023年11月30日
三菱ロジスネクスト株式会社

Logisnext

**2024年3月期第2四半期
決算概要**

**三菱ロジスネクスト株式会社
取締役 執行役員 CFO 宇野 隆俊**

市場環境

- 世界経済は、インフレ率の鈍化は見られるも依然として高い水準にあるために各国中央銀行による金融引き締め策は維持されており、また、ロシアによるウクライナ侵攻も長期化して収束が見通せない状況の中で、その成長は益々鈍化・減速している。コロナ禍からの急激な回復局面で引き起こされた輸送費の高騰は収まったものの、インフレ下においては、人件費の高騰だけでなく燃料費、部品費など広範囲でのコスト高を引き起こし、国内外でその影響が大きくなっている
- 物流機器市場は、国内においてはコロナ禍前と同様の水準で推移。海外においては、米州は景気の減速感もあり需要減少傾向にありながらも、安定した物流ニーズの下、前年度に引き続きコロナ禍前を上回る需要を維持。欧州はインフレ影響もあり、一時の反動需要からは縮小したのち景気停滞が長期化している。アジアはインフレ・利上げの影響から若干弱含みに推移。一方、中国は、ゼロコロナ政策の解除により回復基調にはあるものの、不動産市場の悪化もあり、市場期待までに及ばない状況にある
- 当社においては、様々な部品供給の遅れによるリードタイムの長期化は解消傾向にはあるが、コスト高の状況は継続している。グループ全体としては十分な受注高を確保しつつ、国内、海外において欠品解消による生産整流化、出荷の促進を推し進め、それに伴って価格適正化の効果も拡大させてきている

連結業績概要

- 売上高は、日本、米州での販売台数増に加え、価格適正化の効果、為替の円安影響が寄与したことで、前年比+23.0%の増収
- のれん等償却前営業利益は、コスト高の影響を受けながらも、計画を上回るペースでの米州を中心とした出荷促進と価格適正化の効果拡大が寄与したことで、前年比+347.3%の増益

2. 決算ハイライト

(単位：億円)

損益計算書	FY2022/2Q(※)	FY2023/2Q	前年同期比増減	
売上高	2,795.9	3,437.7	+641.7	+23.0%
営業利益 (のれん等償却前) (営業利益率)	62.1 (2.2%)	278.1 (8.1%)	+215.9	+347.3%
のれん等償却	52.5	50.7	—	—
営業利益 (営業利益率)	9.6 (0.3%)	227.3 (6.6%)	+217.7	+2,259.3%
経常利益 (経常利益率)	9.0 (0.3%)	210.6 (6.1%)	+201.5	+2,214.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	-14.2 —	165.6 (4.8%)	+179.8	—

(※) 前連結会計年度中に適用していたEQDの企業結合に係る暫定的な処理に関し、前連結会計年度末において、暫定的な処理の確定を実施したため、2023年3月期第2四半期の各数値(のれん等)について確定の内容を反映させている

FY2022/2Q実績レート：USD = 133.97円 EUR = 138.73円 CNY = 19.88円
 FY2022/4Q実績レート：USD = 135.47円 EUR = 140.97円 CNY = 19.75円
 FY2023/2Q実績レート：USD = 141.00円 EUR = 153.39円 CNY = 19.75円

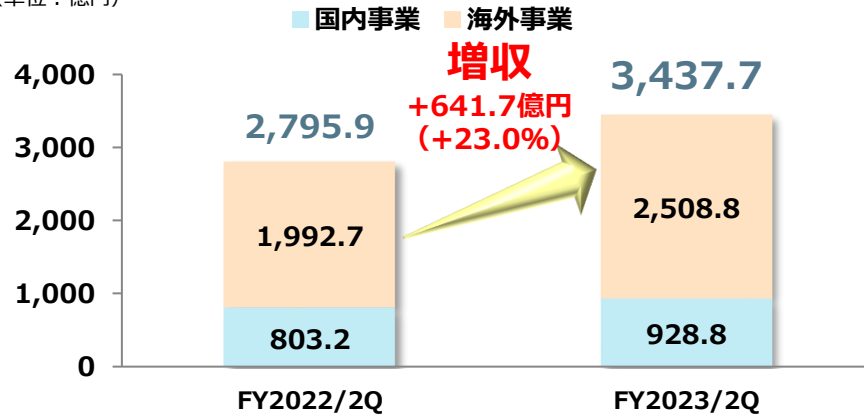
貸借対照表	FY2022/4Q	FY2023/2Q	前期末比増減	
総資産	4,754.3	5,198.9	+444.6	+9.4%
総負債	3,994.0	4,164.9	+170.8	+4.3%
純資産	760.2	1,034.0	+273.7	+36.0%

3. セグメント別業績

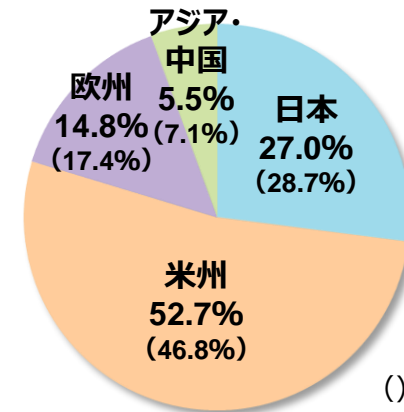
売上高

■ 国内及び米州での販売台数の増加及び価格適正化の効果が寄与したことで増収。また、為替の円安影響も追い風となり、トータルは前年比+23.0%の増収

(単位：億円)



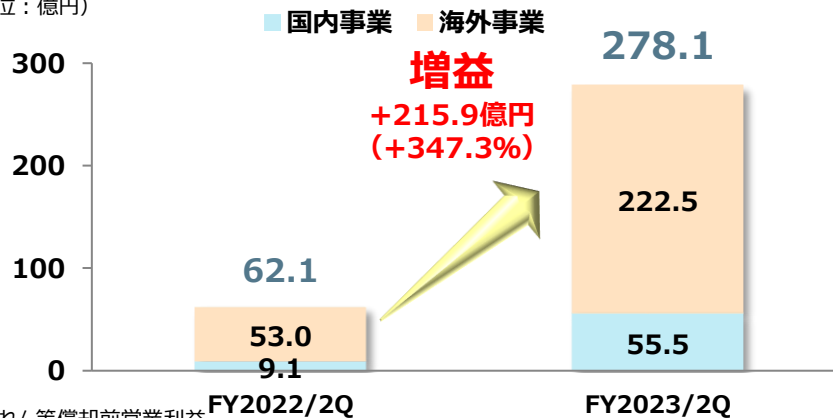
FY2023/2Q地域別内訳



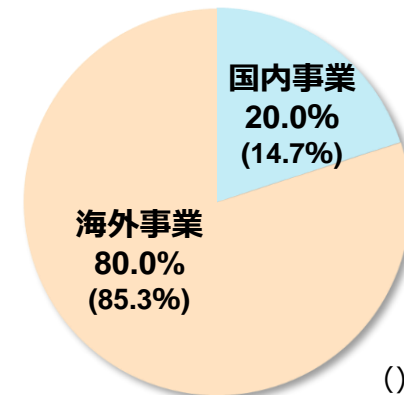
営業利益 (※)

■ 国内事業は円安や海上輸送費の高騰沈静化が寄与、海外事業は米州の計画を上回る出荷促進と価格適正化の効果拡大、円安が寄与し、トータルでは前年比+347.3%の増益

(単位：億円)



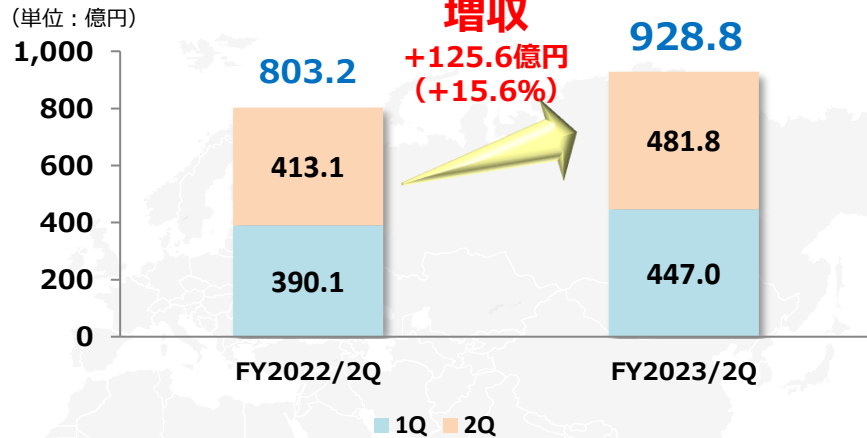
FY2023/2Qセグメント別内訳



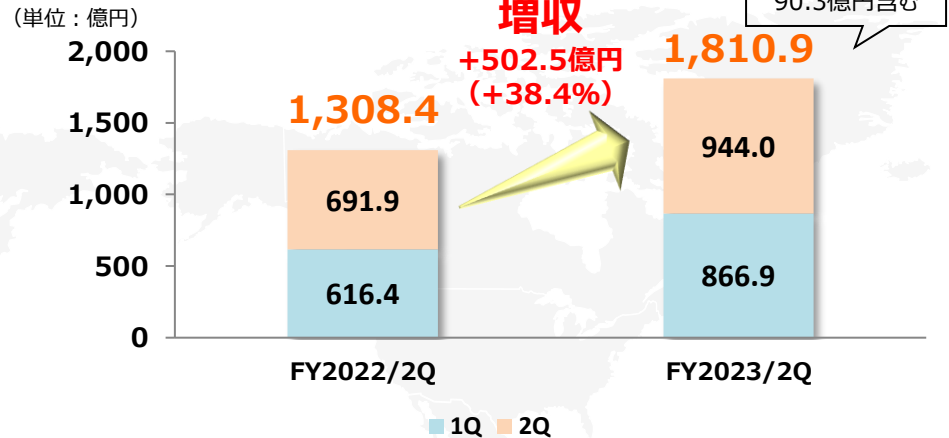
(※)のれん等償却前営業利益

4. 地域別売上高 (為替影響含む)

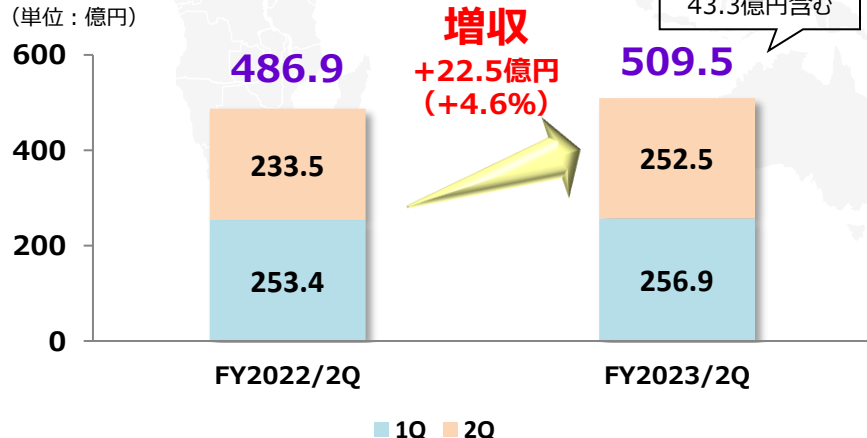
日本



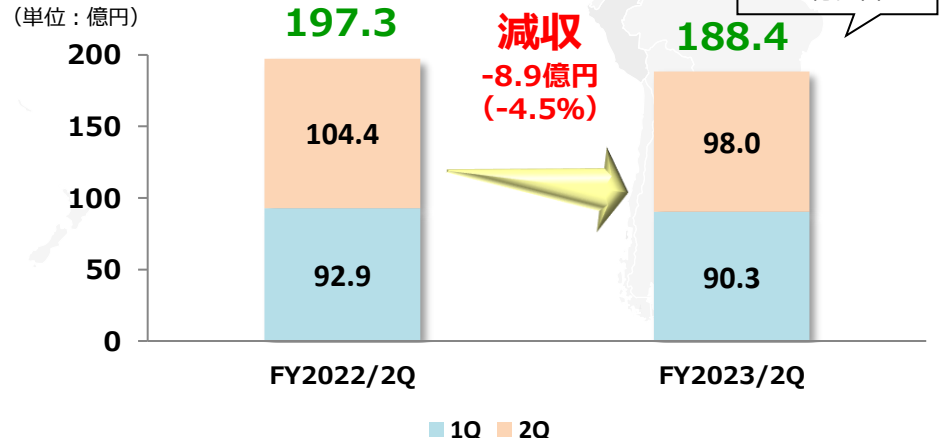
米州



欧州



アジア・中国



5. 連結売上高増減要因 (前年同期実績対比)

- 国内事業：部品欠品が解消傾向に向かい、価格適正化の効果も寄与したことで増収
- 海外事業：計画を上回るペースで米州の販売台数が増加したことで価格適正化の効果が拡大、為替の円安影響が寄与。欧州、アジア・中国は減収となった

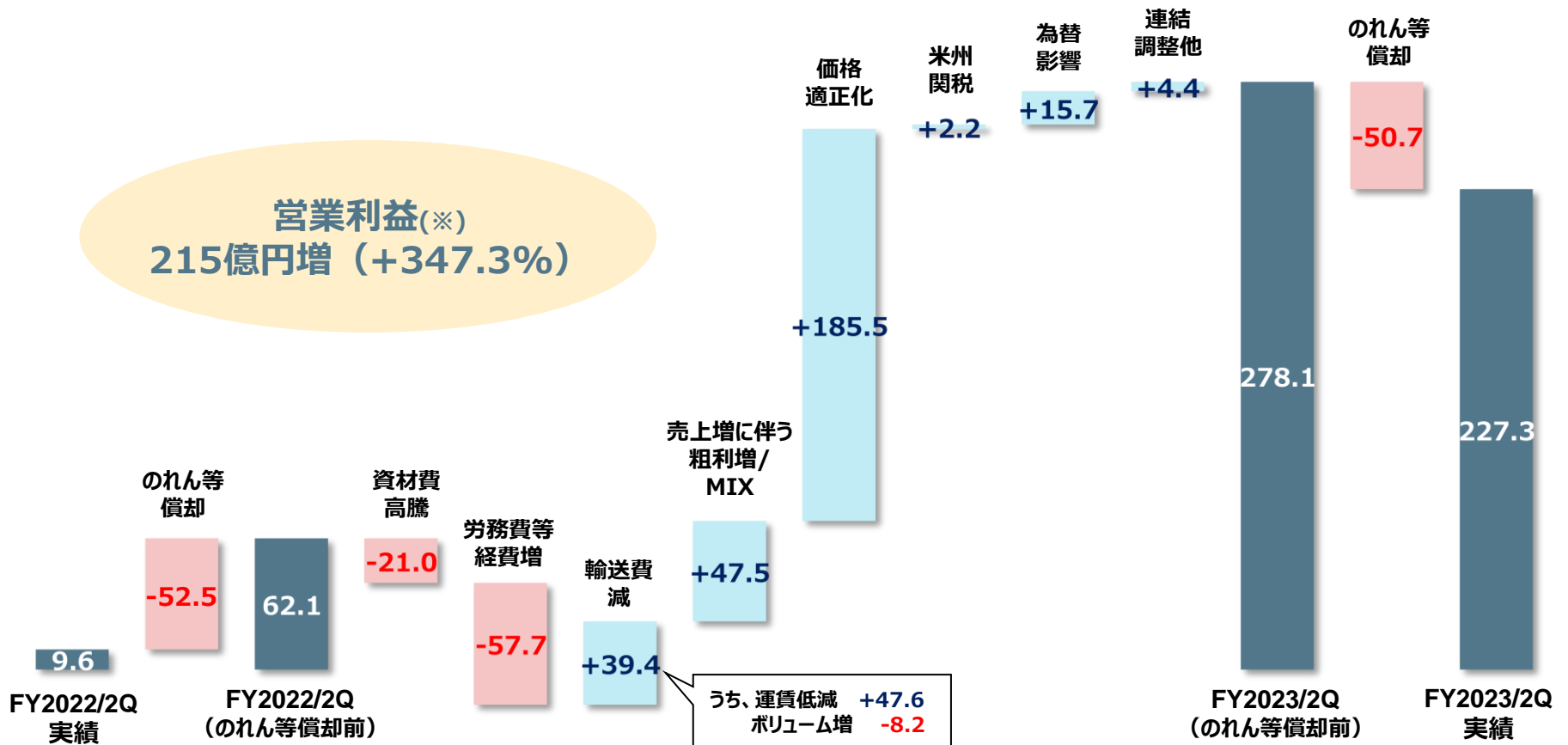
(単位：億円)



6. 連結営業利益^(※)増減要因 (前年同期実績対比) Logisnext

- 資材費は円安の影響もあり主に日本で悪化。人件費等のインフレ影響も続く
- 売上高の増加、価格適正化の効果、海上輸送費の高騰沈静化が大きく寄与し、前年比 +347.3%の増益

(単位：億円)



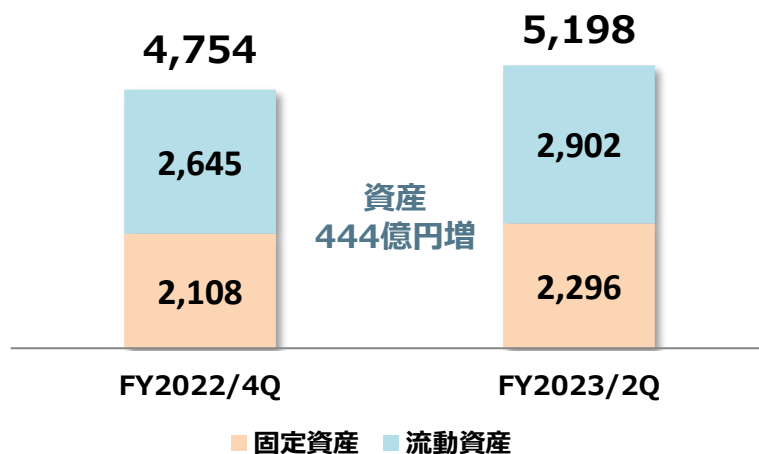
(※)のれん等償却前営業利益

7. 連結貸借対照表

- 増益による利益剰余金増及び為替換算調整勘定の増加により純資産が増加。自己資本比率は15.9%→19.8%に改善

(単位：億円)

資産



項目	FY2022/4Q	FY2023/2Q	増減
流動資産	2,645	2,902	+256
（有形固定資産）	1,489	1,660	+171
（無形固定資産）	411	388	-22
（投資その他）	208	247	+39
固定資産計	2,108	2,296	+187
資産合計	4,754	5,198	+444

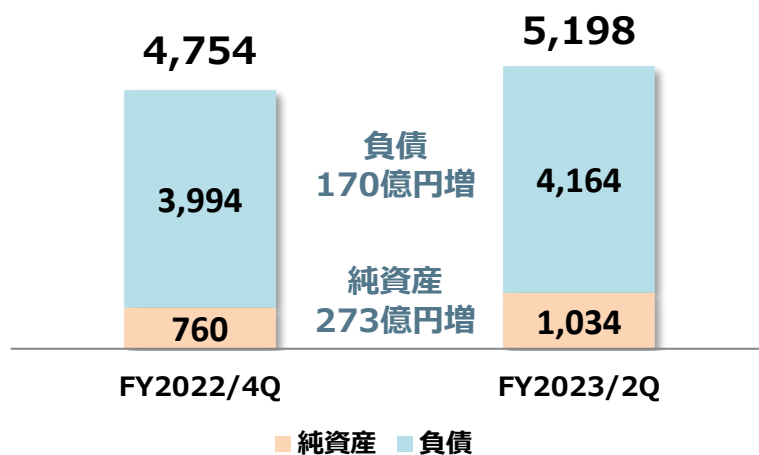
流動資産：増

為替の換算影響、現預金、棚卸資産の増加等

固定資産：増

為替の換算影響及有形固定資産の増加等

負債／純資産



項目	FY2022/4Q	FY2023/2Q	増減
流動負債	2,087	2,135	+48
固定負債	1,906	2,029	+122
負債合計	3,994	4,164	+170
純資産計	760	1,034	+273
負債・純資産合計	4,754	5,198	+444

負債：増

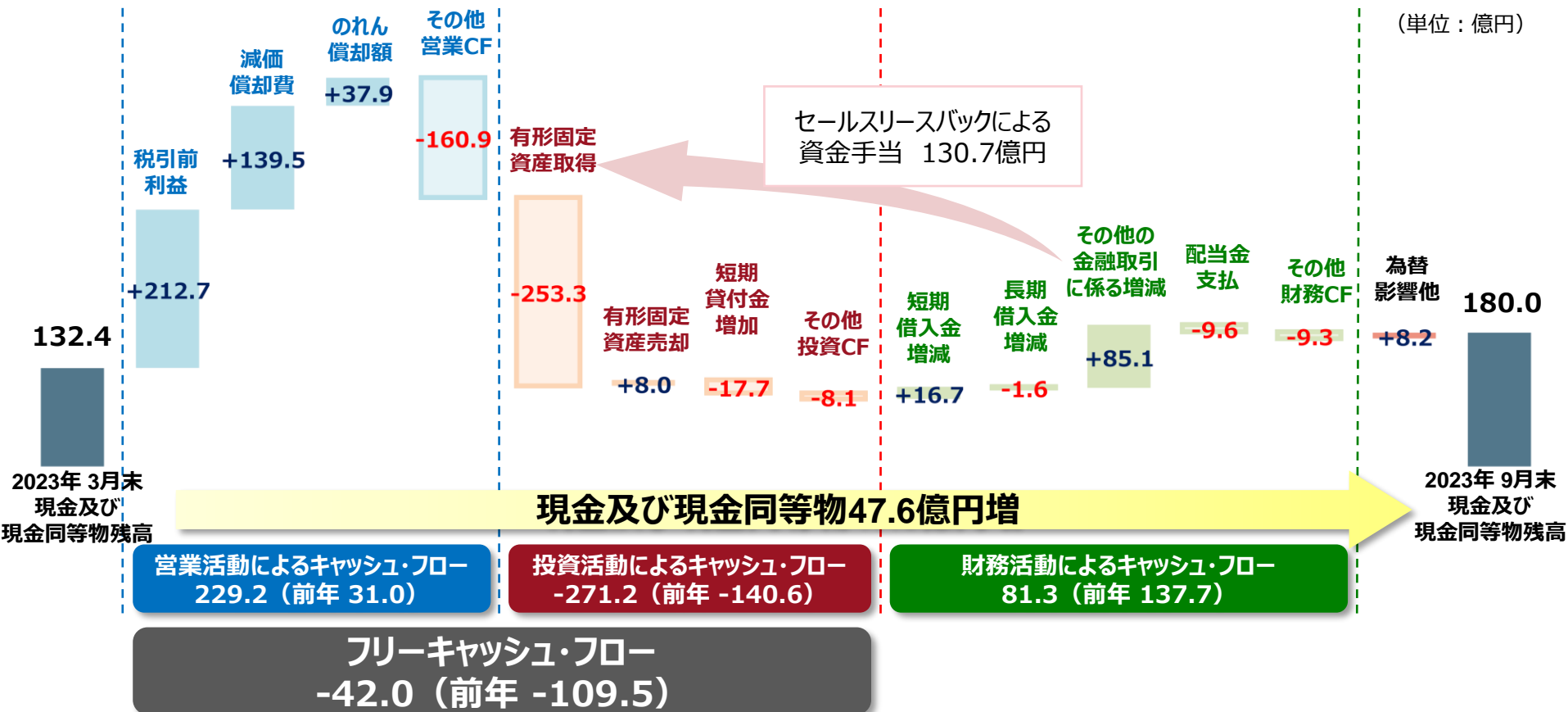
為替の換算影響等

純資産：増

利益剰余金及び為替換算調整勘定の増加

8. キャッシュ・フローの状況

- 営業C/Fは運転資本が悪化したものの、税引前利益が増加したことにより前年比+198.1億円
- 投資C/Fは短期貸付金回収から当期は預入に転じたこと（影響額-125.3億円）や有形固定資産の取得による支出の増加により前年比-130.6億円
- フリーC/Fは営業C/Fの改善により前年比+67.5億円（上記の短期貸付金の影響を加味すれば前年比+192.8億円）



【参考資料】主な経営指標

	指標	算式	FY2022/4Q		FY2023/2Q*1		コメント
				のれん等償却前*2		のれん等償却前*2	
総合	総資本利益率 (ROA)	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{総資本}}$	1.6%		6.7%		売上高の大幅増加、価格適正化の取り組み効果、為替の円安影響による業績回復に伴い、各指数が良化。
	自己資本利益率 (ROE)	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本}}$	10.0%		37.2%		
収益性	売上高営業利益率	$\frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}}$	2.4%	4.1%	6.6%	8.1%	
	売上高当期純利益率	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{売上高}}$	1.1%	2.7%	4.8%	6.2%	
効率性	総資本回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{総資本}}$	1.4回		1.4回		
	売上債権回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{売上債権}}$	6.8回		7.1回		
	棚卸資産回転率	$\frac{\text{売上原価}}{\text{棚卸資産}}$	4.7回		4.4回		
安全性	自己資本比率	$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}}$	15.9%		19.8%		
	D/Eレシオ	$\frac{\text{有利子負債}}{\text{株主資本}}$	3.0倍		2.4倍		
株式関連	1株あたり利益	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{発行済株式数}}$	64.82円		310.62円		
	株価収益率 (PER)	$\frac{\text{株価}}{\text{1株あたり利益}}$	14.5倍		4.4倍	株価： 2023年3月末：941円 2023年9月末：1,366円	
	株価純資産倍率 (PBR)	$\frac{\text{株価}}{\text{1株あたり純資産}}$	1.3倍		1.4倍		

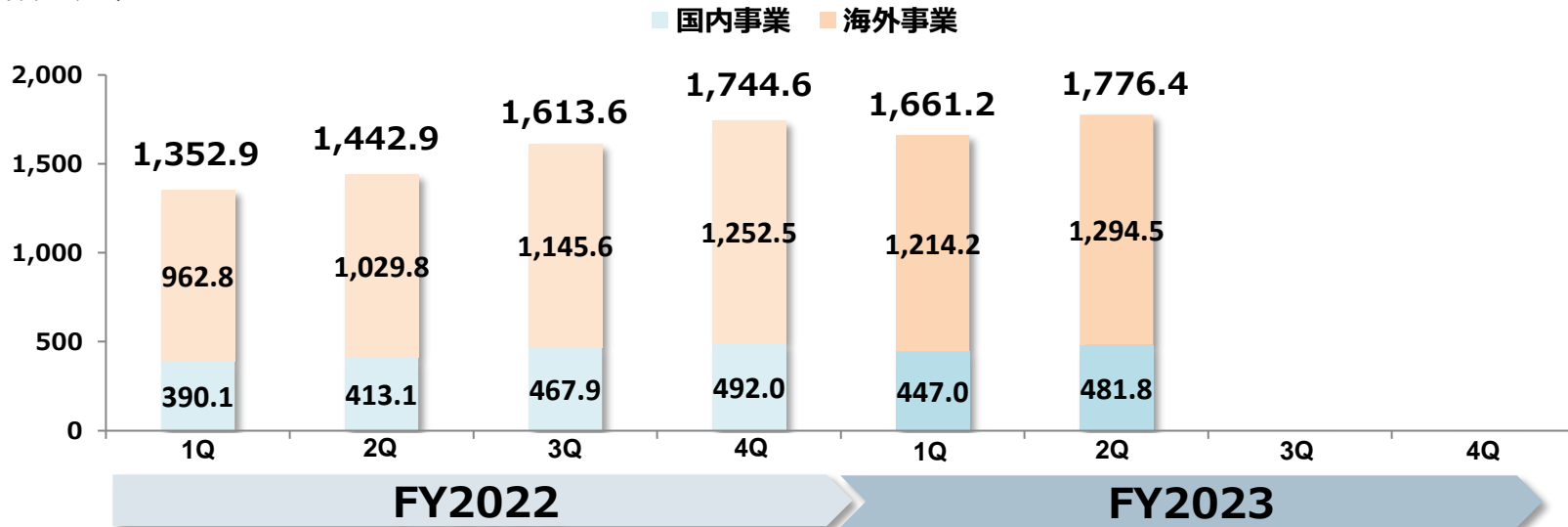
*1 PL項目は年換算して算出

*2 参考値

【参考資料】四半期推移 (事業別売上高・営業利益)

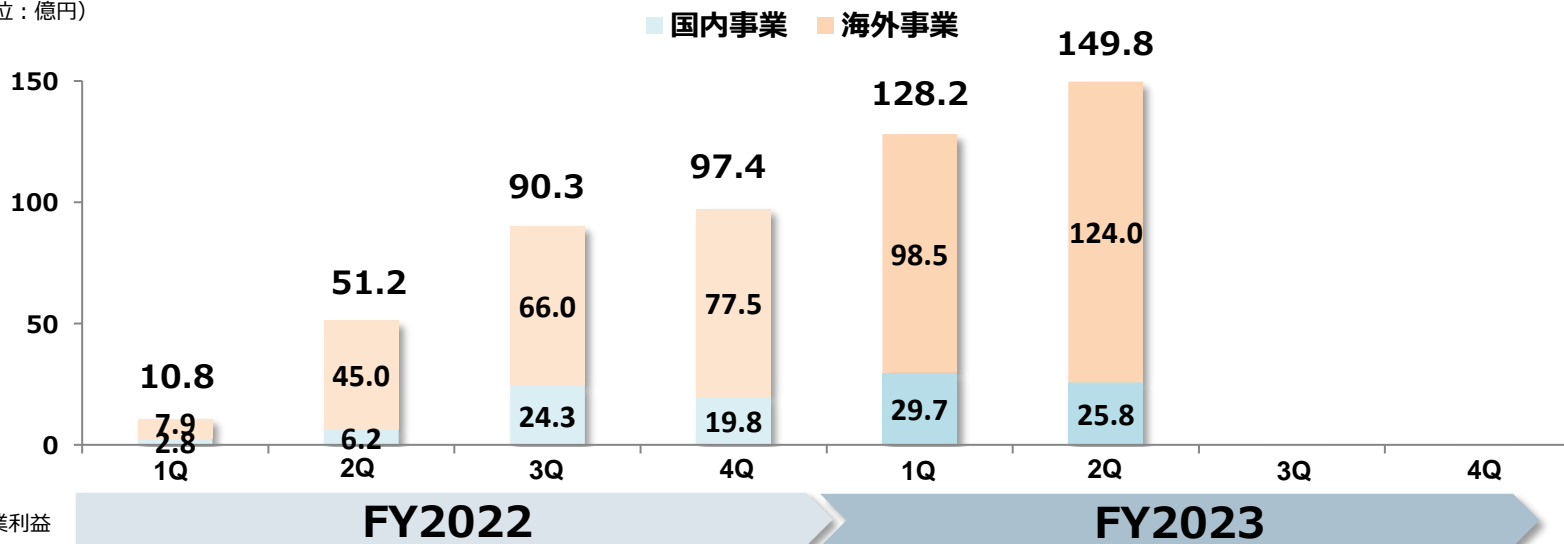
(単位：億円)

売上高



(単位：億円)

営業利益
(※)

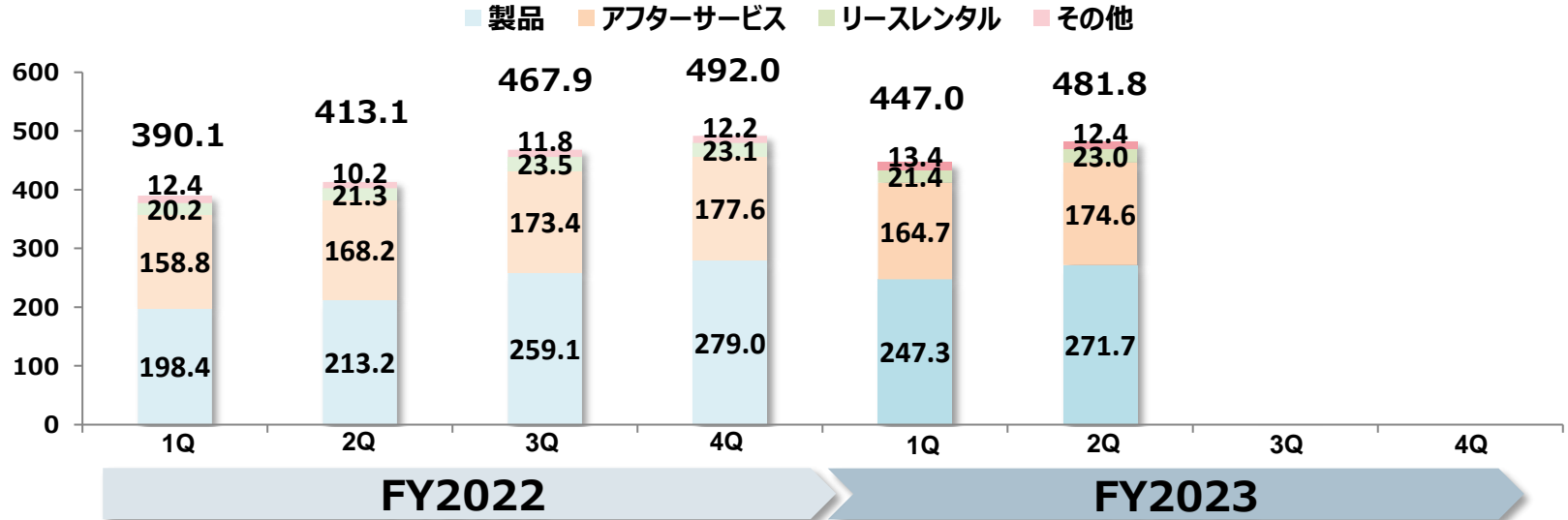


(※) のれん等償却前営業利益

【参考資料】四半期推移（カテゴリー別売上高）

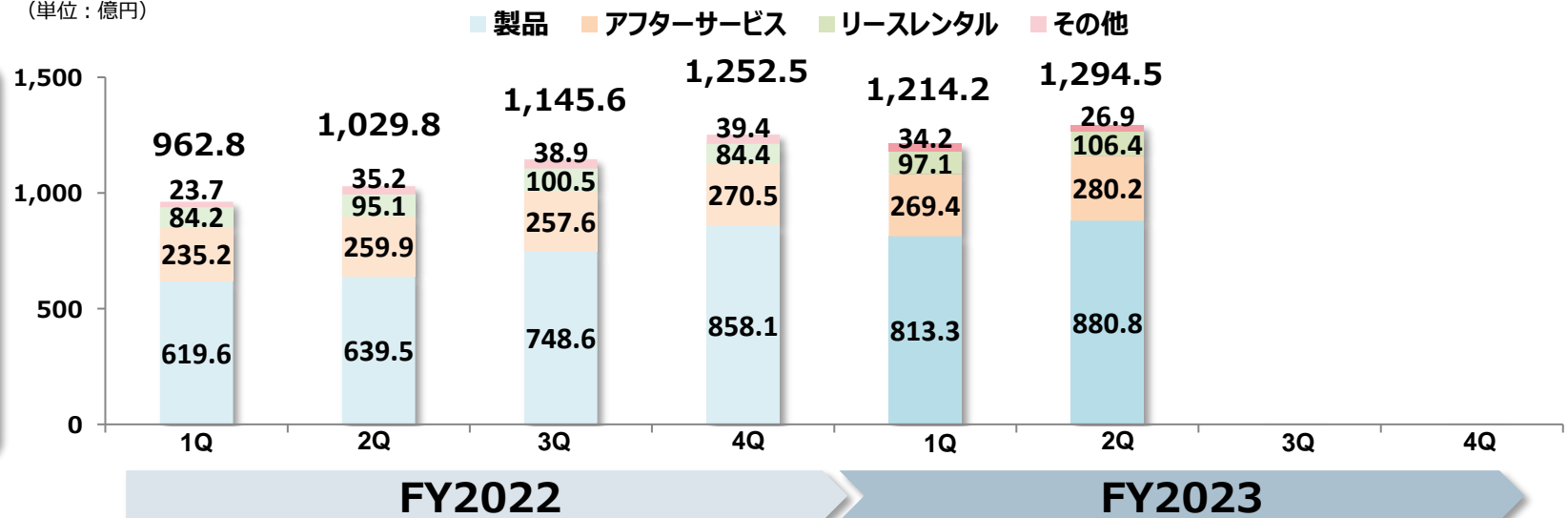
(単位：億円)

売上高／国内

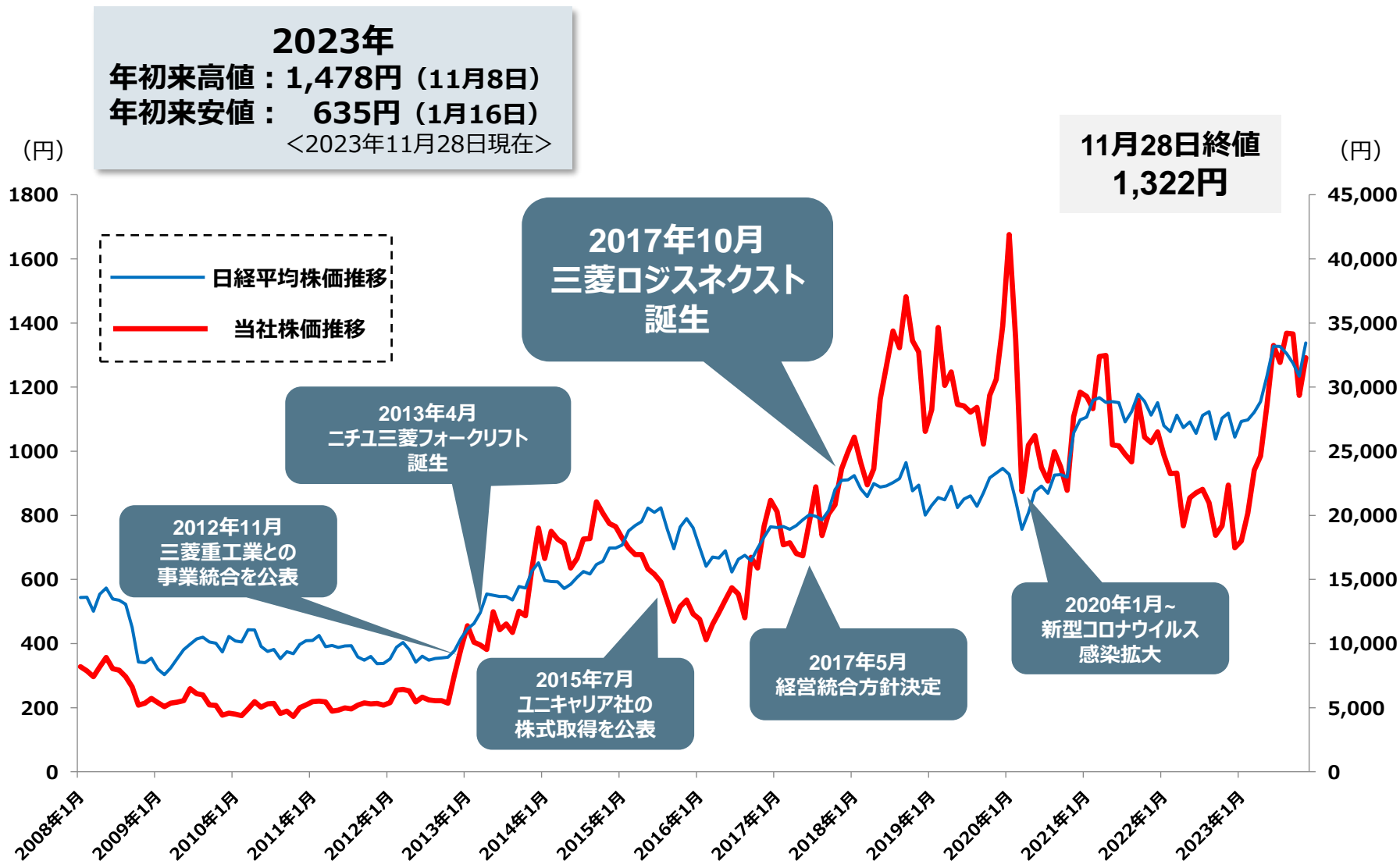


(単位：億円)

売上高／海外



【参考資料】株価の推移



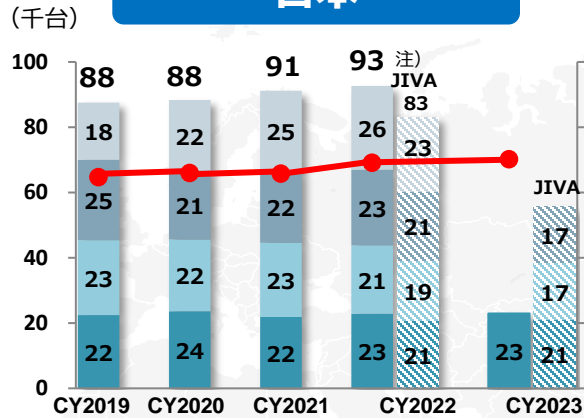
中期経営計画進捗状況

三菱ロジスネクスト株式会社
代表取締役社長 間野 裕一

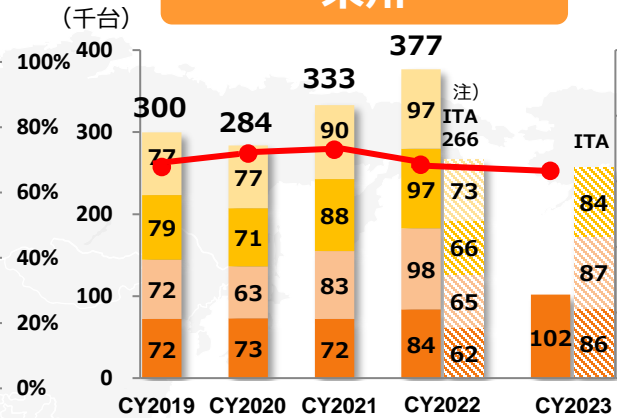
1. フォークリフト市場動向【出荷】

■ 2023年1~9月において、日本(JIVA統計)は前年より減速傾向、米州(ITA統計)は景気減速感はあるものの出荷は引き続き堅調

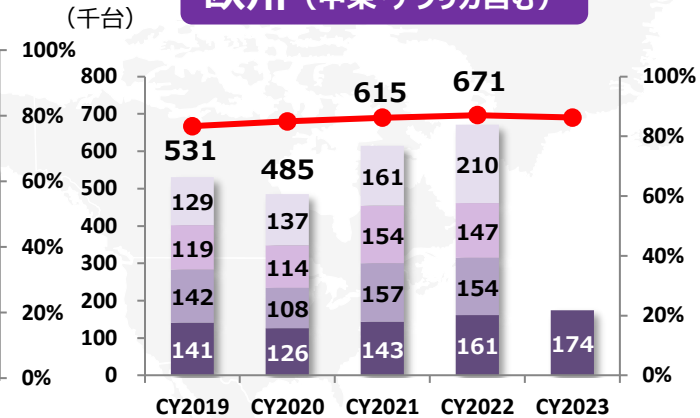
日本



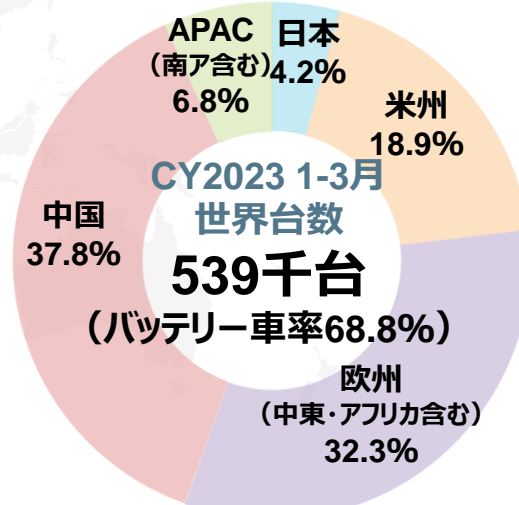
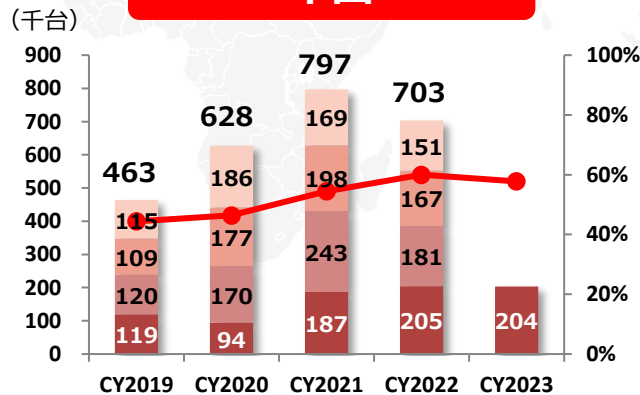
米州



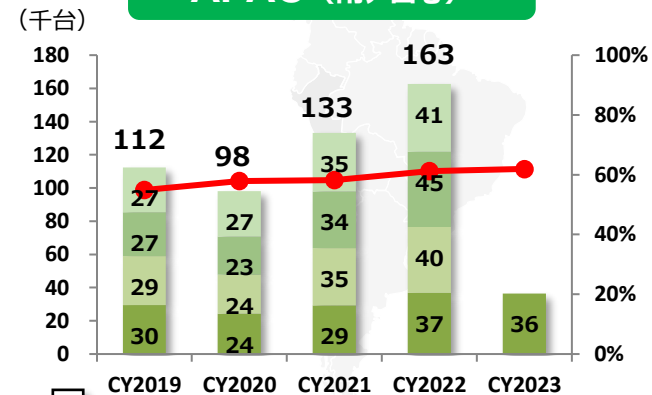
欧州 (中東・アフリカ含む)



中国



APAC (南ア含む)



注) WITS加盟団体の統計開示方針変更のため1~12月のCYで集計
上記によるWITS統計開示遅延の為、日本はJIVA、米州はITAより集計。他地域は各国の統計データ未開示の為、CY2023 2Q以降は空白
なお、JIVAはWITSとは基準が異なり、一部の車種が含まれていない。ITAは中国・韓国メーカーの米州内販売台数が含まれていない

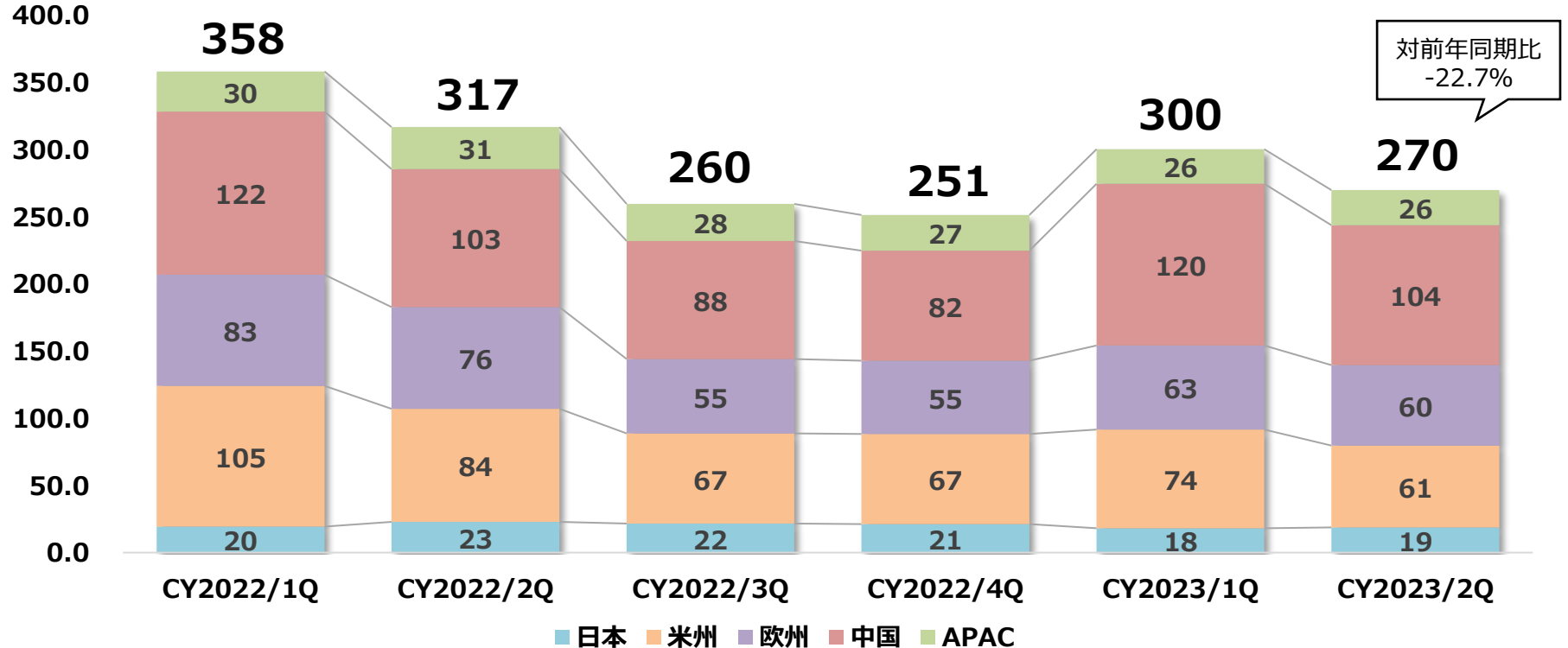
□ 市場台数
● バッテリー車率

2. フォークリフト市場動向【受注】（四半期推移）

- 世界的な景気減速により、前年比で中国を除く全地域の受注は減少しているが、依然としてコロナ禍前を上回る需要で推移している

受注台数（ClassⅢ（※）除く）

（単位：千台）

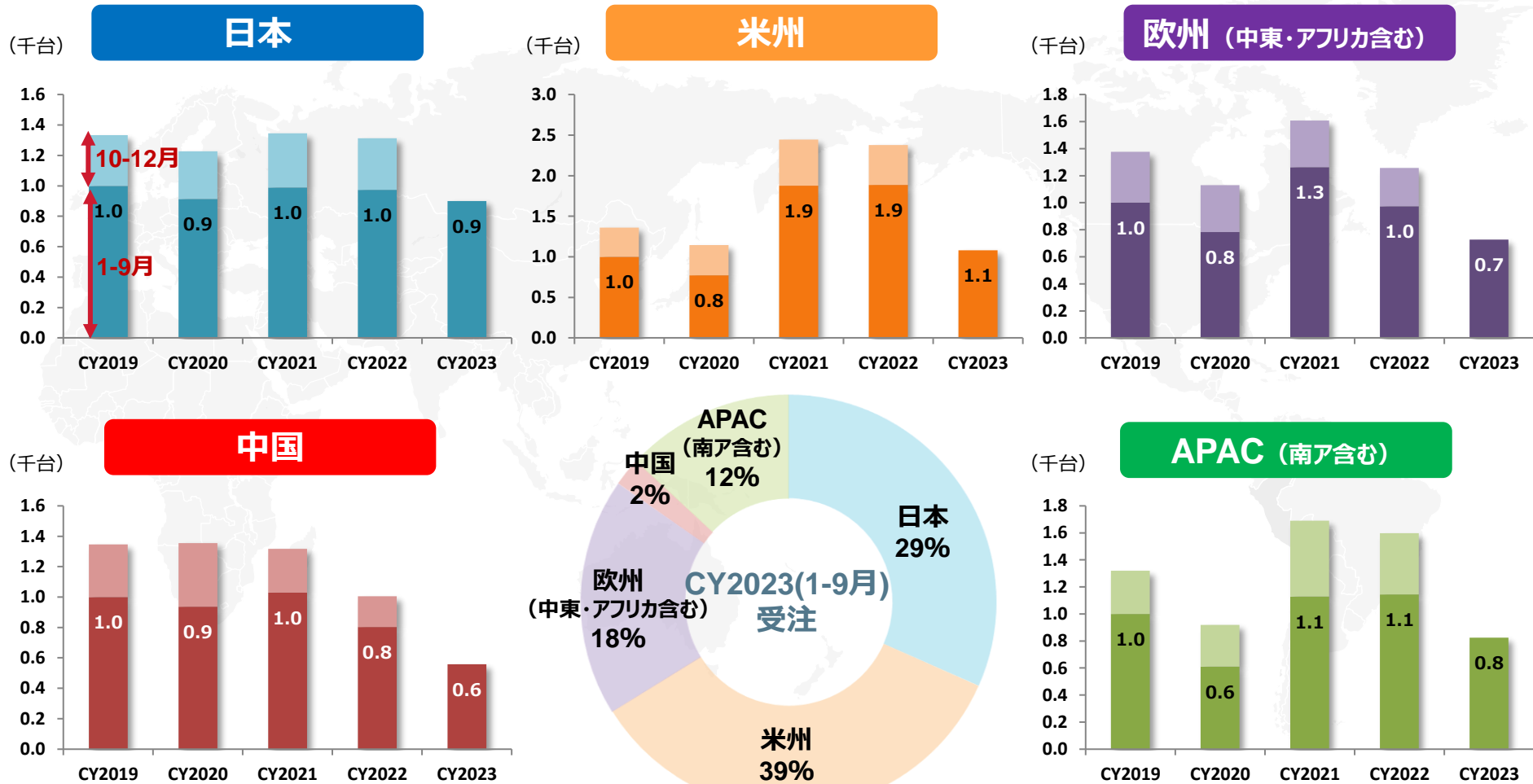


（※）ClassⅢ：自走式電動小型リフト

注）WITS加盟団体の統計開示方針変更のため1～12月のCYで集計

3. 当社受注状況 (1月~9月)

■ 日本は比較的堅調に推移。その他地域は世界的な景気減速により前年比大幅に減少しているが、米州は依然としてコロナ禍前を上回る

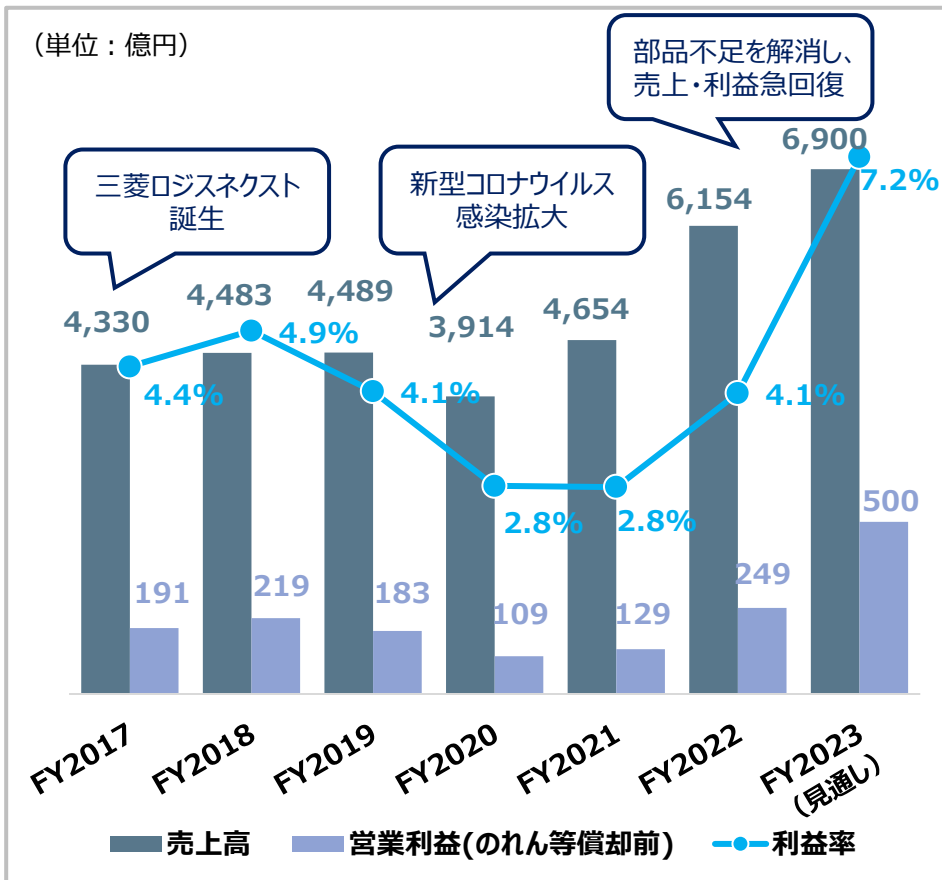


注) CY2019 1-9月=1として指数化。小数点以下の差により、同じ数値表記であっても見かけ上グラフの高さに違いが生じることがある
© MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

4. 当社の業績推移と業界での位置付け

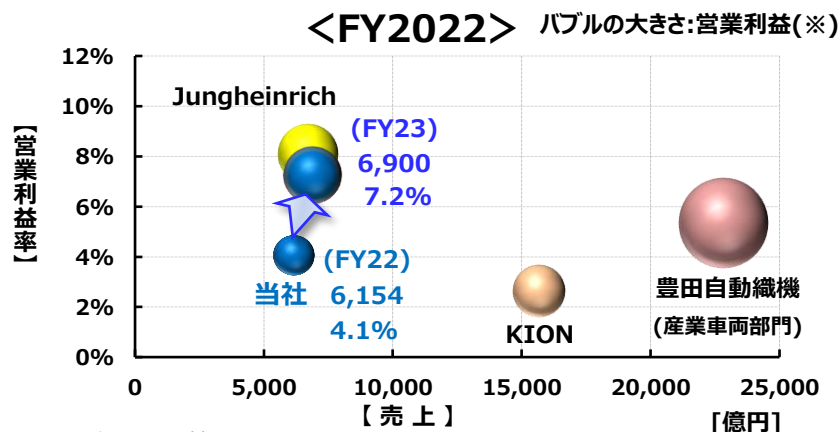
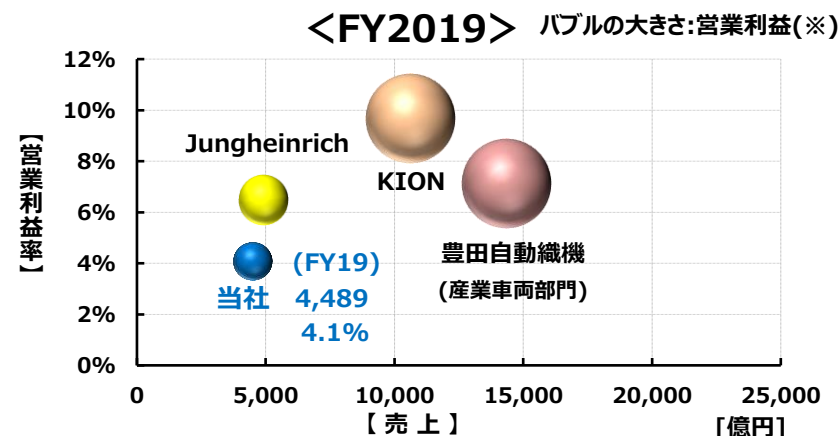
- 一時コロナ禍で落ち込んだ業績を取り戻し、FY2023には過去最高の業績となる見込み
- ユニキャリア買収後、徐々に業績を拡大し、業界の中においても存在感を増してきている

当社 業績推移



© MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

業界での位置付け



(※) 各社開示情報より作成
当社はのれん等償却前営業利益を対象としている

5. 中期経営計画 進捗状況

中期経営計画 「Logisnext SolutionS 2023」 (呼称、『LS23』)

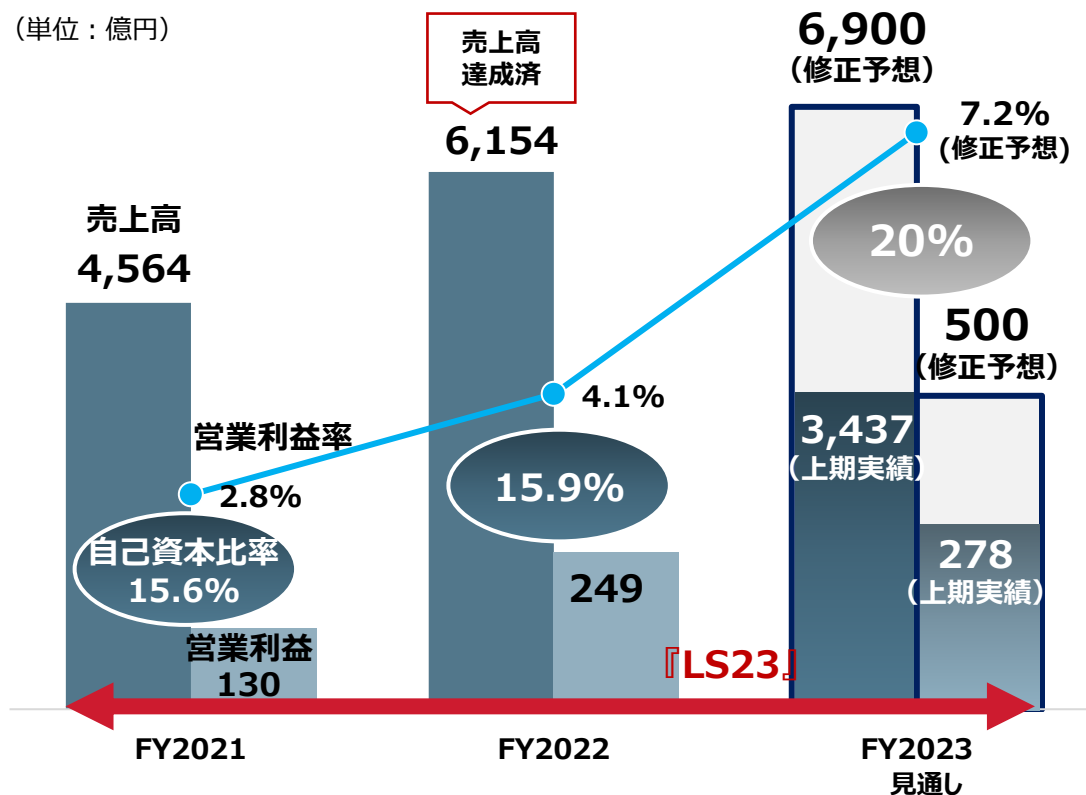
企業耐力の強化

成長戦略の推進

ブランド力向上

- ✓ 売上高5,000億円
- ✓ 営業利益(※)300億円、営業利益率6% (※)のれん等償却前
- ✓ 自己資本比率20%以上

(単位：億円)



- **売上高**
『LS23』目標値の5,000億円は2022年度で超過達成。米州での出荷促進により、2023年度には6,900億円を見通す
- **営業利益・営業利益率**
売上増、価格適正化の寄与及び為替影響により、『LS23』目標値を超過達成する見込み
- **自己資本比率**
為替影響及び収益拡大による利益剰余金増が寄与し、20%を達成する見込み

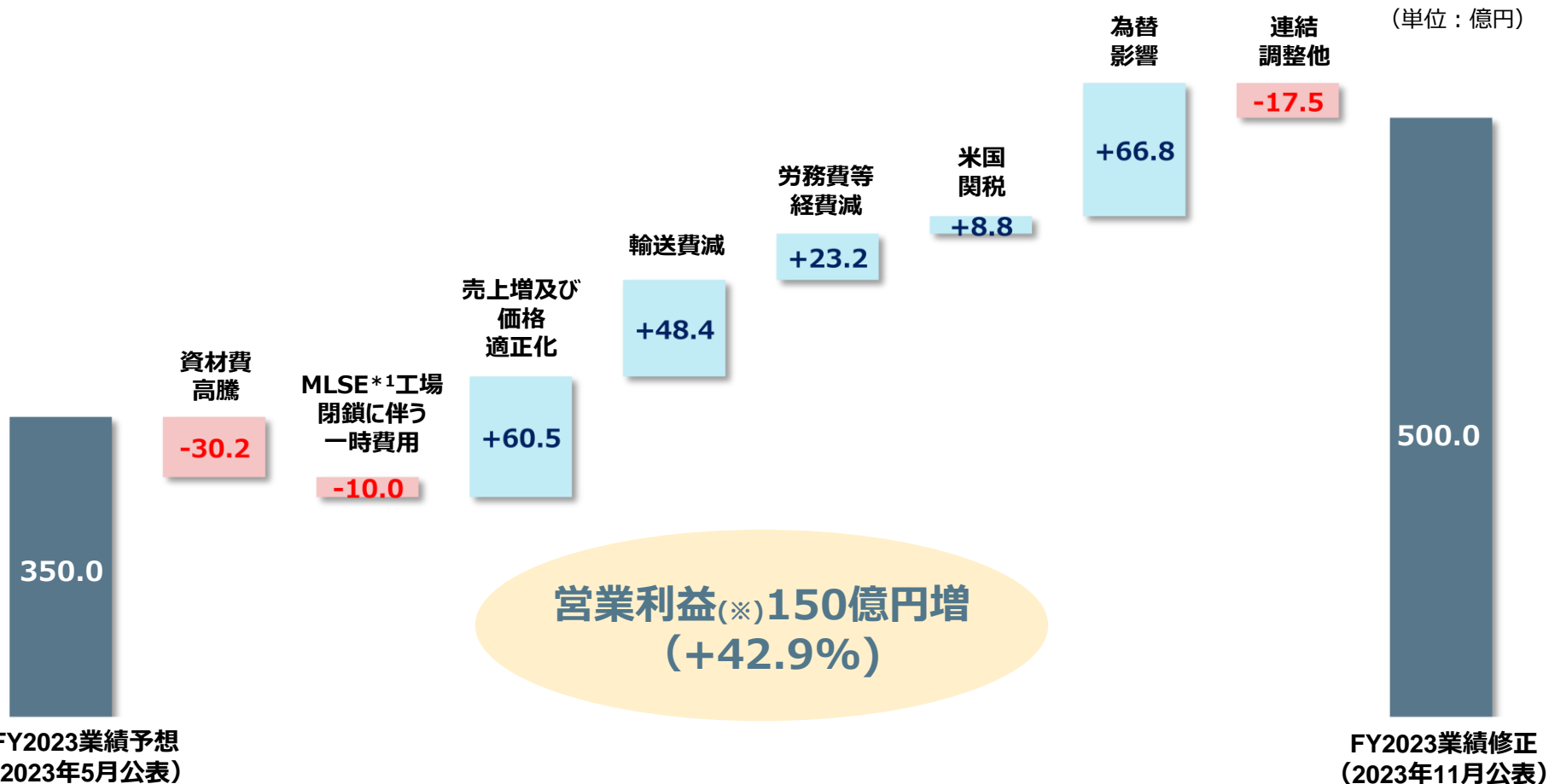
6. FY2023業績見通し

- 世界的な景気減速懸念から市場環境の悪化を想定するが、価格適正化の効果が計画を上振れることに加え、為替の円安進行が寄与し、期初予想を大幅に上回る見込み
- 売上高、全利益項目で過去最高を見込む

(単位：億円)	FY2023業績予想 (2023年5月公表)	FY2023業績修正 (2023年11月公表)	期初予想比増減	
販売台数	115千台	115千台	-	-
売上高	6,300.0	6,900.0	+600.0	+9.5%
営業利益 (のれん等償却前) (営業利益率)	350.0 (5.6%)	500.0 (7.2%)	+150.0	+42.9%
のれん等償却	100.0	100.0	-	-
営業利益 (営業利益率)	250.0 (4.0%)	400.0 (5.8%)	+150.0	+60.0%
経常利益 (経常利益率)	230.0 (3.7%)	360.0 (5.2%)	+130.0	+56.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	130.0 (2.1%)	230.0 (3.3%)	+100.0	+76.9%
1株あたり配当	16円	19円	+3円	-

7. 通期見通し 営業利益^(※)増減要因

- 日本での価格適正化及び米州での出荷促進による価格適正化の刈り取り加速と、輸送費の改善、為替の円安進行により期初予想比で+150億円の500億円を見込む



(※) のれん等償却前営業利益

*1 MLSE社: Mitsubishi Logisnext Europe AB
 © MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

8. 『LS23』取り組み内容

- 2023年度は完遂・進化フェーズとして、あらゆる打ち手で収益力の向上を実現
- 安心・安全な物流ソリューションの提供、自動化への取り組みを推進中

2021年度
始動・基盤構築フェーズ

2022年度
成長・拡大フェーズ

2023年度
完遂・進化フェーズ

収益力・企業耐力強化

- 米州 業績推移
- 米州 バッテリー車新工場の建設開始
- 欧州 工場再編
- 欧州 バッテリー化需要への対応

物流ソリューション事業の取り組み

- 物流ソリューション事業統括に向けた新組織設立
- 北米、Jungheinrich社と折半出資で新会社設立
- 三菱重工業との協業

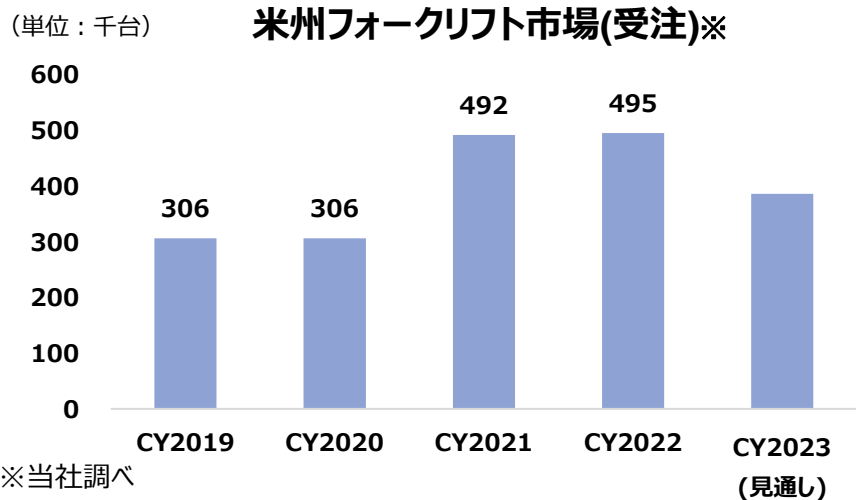
ブランド力向上

- 新規取り組みによるブランドアピール
- 統合レポートの発行・長期経営ビジョン制定

9. 収益力強化 – 米州 業績推移

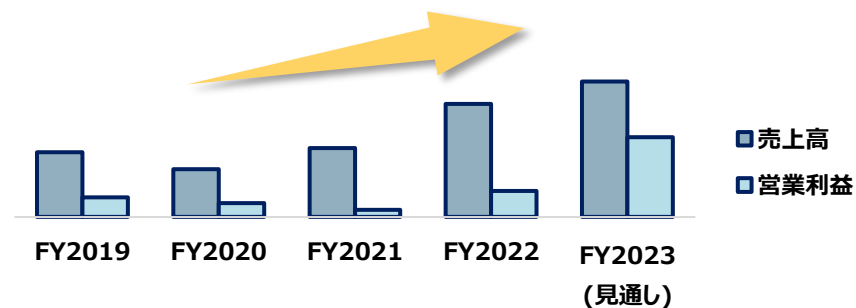
- 景況感悪化により足元の受注は厳しいが、コロナ禍前の水準を維持
- 生産整流化を進めることで、前期に引き続き今期も業績を伸ばす見込み

米州 年度推移 (2019-2023)

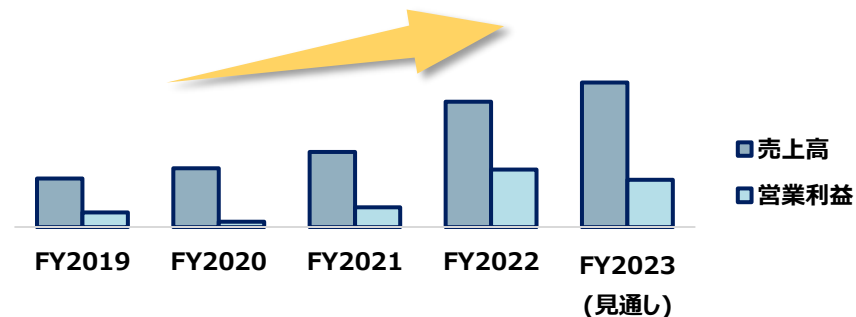


- コロナ禍からの回復局面において拡大した受注は落ち着いてきている
- 価格適正化の取り組みや生産整流化により、2022年度から業績を回復

MLA*1 売上高・営業利益推移



EQD*2 売上高・営業利益推移



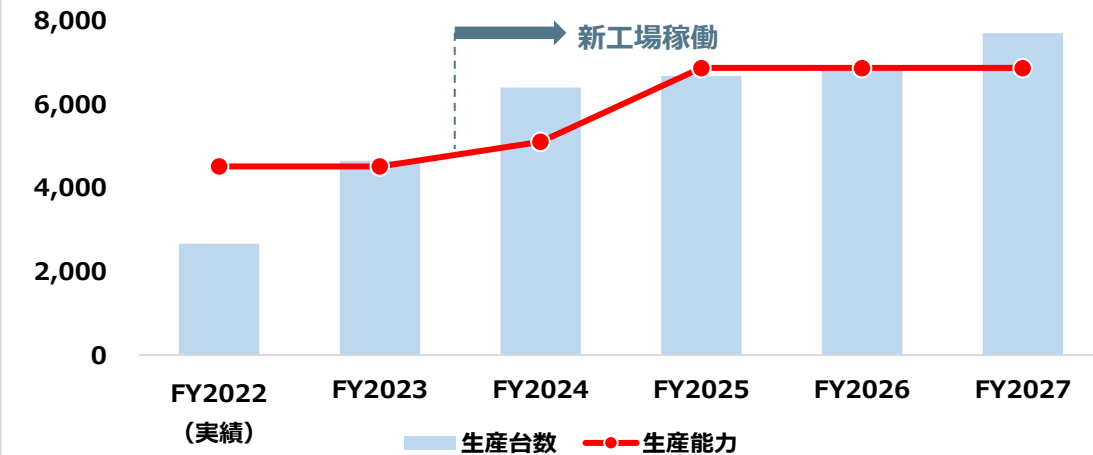
*1 MLA社: Mitsubishi Logisnext Americas Inc.

*2 EQD社: Equipment Depot, Inc.

10. 収益力強化 – 米州 バッテリー車新工場の建設開始 **Logisnext**

- 脱炭素化・バッテリー化需要に向け、MLAヒューストン工場にバッテリー車新工場を建設開始
- 工場内集約・新工場建設により生産効率を改善し、米州市場でのバッテリー車拡販を図る

(単位:台) ヒューストン工場 バッテリー車生産台数・生産能力 (見通し)



バッテリー車新工場 鉄入れ式

- 2023年度の生産台数は2022年度に対し+74%。2024年度以降も大幅増加を見込む
- 将来の需要増に対応するため、2024年度以降、生産能力増強を計画
- 新工場稼働は2024年を予定



オーダーピッキング
トラック



リーチフォークリフト



立席式カウンター
バランスフォークリフト

対象機種

1 1. 企業耐力強化 – 欧州 工場再編

- 経営効率化の推進策として、欧州拠点MLE*1傘下のMLSE*2の工場機能を閉鎖し、MLFI*3を中心に生産移管・集約することを決定
- 工場機能閉鎖及び生産集約は、2024年12月完了の予定

欧州拠点



MLFI生産集約の目的



固定費削減・生産効率改善の実行・実現



環境変化に揺らぐことのない耐力強化



- MLFIは、欧州3工場の中で最大の生産能力を持つ基幹工場
- MLSEとのロケーションが近く、生産機種も類似していることから工場機能の統合が可能

● 生産拠点

*1 MLE社: Mitsubishi Logisnext Europe B.V.

*2 MLSE社: Mitsubishi Logisnext Europe AB

*3 MLFI社: Mitsubishi Logisnext Europe Oy

*4 MLSP社: Mitsubishi Logisnext Europe S.A.

- 2021年4月より欧州市場へ投入した中型バッテリーフォークリフト「EDiA XL」の販売好調
- エンジン車からの代替需要にも対応している「EDiA XL」の更なる拡販により、加速するバッテリー化需要への対応、脱炭素社会への貢献を図る

ポイント

➤ 脱炭素社会の実現へ貢献

2021年4月より「EDiA XL」を市場投入。
2022年度の販売台数は前年比の約3倍と、
欧州での販売順調

➤ エンジン車からの代替需要に対応

登坂時や加速時に一時的に駆動力を上げるソフトウェア「オートブースト」機能を備え、パワーが必要なエンジン車の使用環境下にも対応

➤ デザイン賞受賞

モダンなデザインや優れたパフォーマンス性などが高く評価され、2023年にドイツの国際的なデザイン賞である「レッドドットデザイン賞」を受賞



EDiA XL

レッドドットデザイン賞受賞



reddot winner 2023

該当するSDGs項目



エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

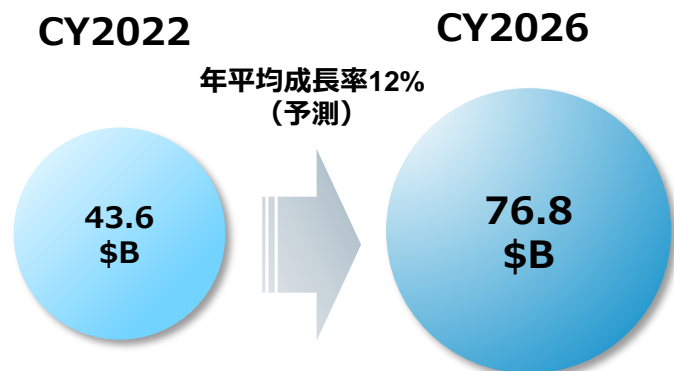


気候変動に具体的な対策を

1 3 . 物流ソリューション事業の取り組み – 新組織設立 Logisnext

- 物流ソリューション(物ソ)市場は拡大する一方、ベンチャー企業参入等により競争が激化
- 当社は物ソ事業を統括する新組織立ち上げ準備のため、2023年10月1日付でロジスネクストソリューションズ準備室（略称 LogSol準備室）を新設し、物ソ事業の収益拡大・強化を図る

自動化機器・物流ソリューション 市場規模



出典: Markets & Markets 2026 forecast

- 国内外で数多くのベンチャー企業参入により競争激化、技術開発も加速

当社の状況

【物ソ事業における課題】

物ソ事業に関する部門が複数の部門・拠点に分散しており、事業全体の把握が困難であった

2023年10月1日 LogSol準備室 新設

- 世界的な自動化需要に対し、当社が開発・販売している自動化・自律化機器、システム、およびサービスなどを効果的に提供する体制の構築を図る

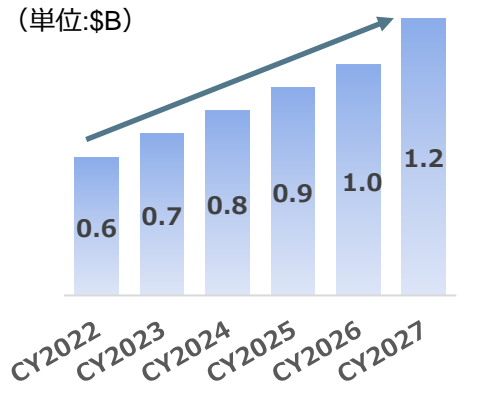


14. 物流ソリューション事業の取り組み – 新会社設立 Logisnext

- 北米では協業関係にあるJungheinrich社とMLAG*¹は折半出資によりRocrich AGV Solutions LCC. (略称Rocrich) を設立。2023年9月より営業を開始
- 自動化需要拡大を鑑み、両社の技術と当社販売網を生かした物流ソリューションを提供

米国 AGV市場規模

(単位:\$B)



出典: AT Kearney

【Rocrich社 製品】



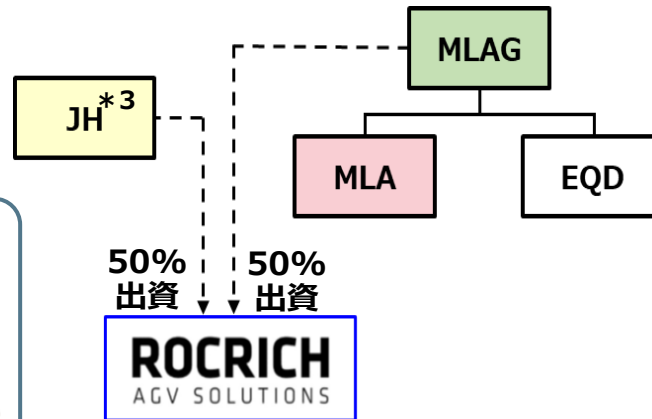
JUNGHEINRICH

RoclA

Rocrich社とは

- JungheinrichとRoclA*²の両ブランドを総合的に取り扱い、標準仕様から特別仕様まで幅広い種類のAGFやAGVを提供
- 営業人員増による対応力強化を計画

【米州 組織図】

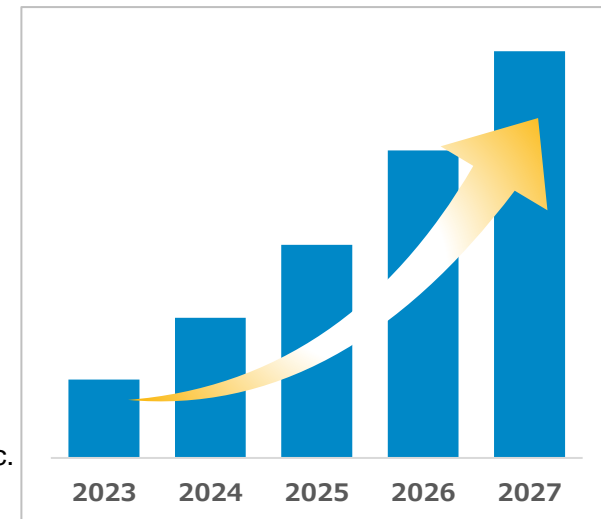


*1 MLAG: Mitsubishi Logisnext Americas Group Inc.

*2 RoclA: 当社グループ独自ブランド

*3 JH: Jungheinrich

【Rocrich社 業績見通し】

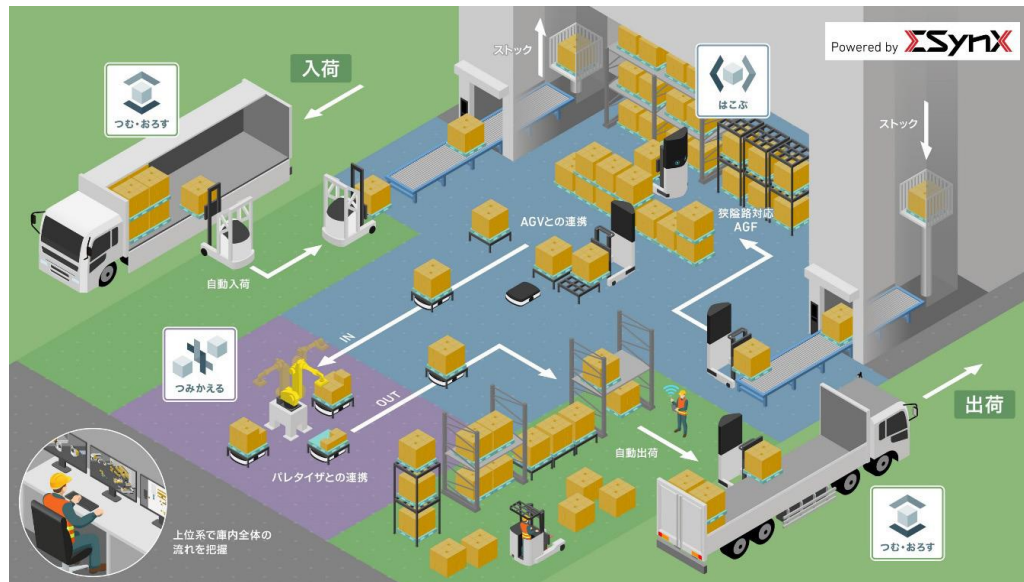


15. 物流ソリューション事業の取り組み – 三菱重工業との協業Logisnext

- 「国際物流総合展2023 第3回INNOVATION EXPO」(9/13-15開催) に三菱重工業と共同出展し、新型無人フォークリフトによる物流オペレーションを実演
- “人と機械が調和した未来の物流” を目指し、物流現場にフレキシブルに調和できる高い生産性・安全性を備えた新たな物流ソリューションを提案



INNOVATION EXPOでの実演の様子



【DECCO】

- 三菱重工業と当社で共同開発中のΣSynX(※)を搭載した次世代AGFのコンセプトカー
- AIを活用した安全対人コミュニケーションやコンパクトな車体でその場での旋回が可能



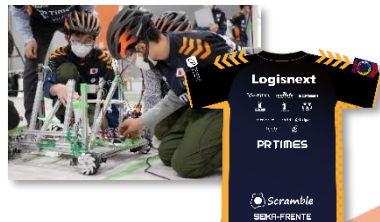
【AGF-X】

- 当社既存機種をベースに三菱重工業と共同開発中の自律型無人フォークリフト
- LiDAR SLAM(※)誘導方式とΣSynXを搭載することで、柔軟で効率的なオペレーションや、熟練オペレーターのようなスムーズな荷役動作を実現

三菱重工グループが描く未来の物流知能化ソリューション

(※) 三菱重工業が掲げる、物流機器の自律化・知能化ソリューションコンセプト「ΣSynX (シグマシンクス)」
 (※) SLAMとは、移動体の自己位置推定と環境地図作成を同時に行う技術の総称のこと。LiDARとは、レーザーセンサー(距離センサー)を主に使用する方法のSLAM技術のこと

■ FY23より実施した“スポーツ協賛”や“社会貢献活動”などの新たな取り組みを通じて「ブランド力向上」を図り、SNSを活用した情報展開で幅広い年代層へのアプローチを実践



5. 社会貢献

- ・地域清掃活動
- ・次世代ロボットエンジニア支援



1. 社員エンゲージメントの向上

- ・古江選手応援ツアー
- ・バスケットボール団体観戦

ブランド力向上



4. 地域連携

- ・近隣小学校ボール寄贈
- ・京都市営バスラッピング



3. リクルート・次世代育成

- ・三菱みなとみらい技術館オンライン工場見学
- ・教科書副読本お仕事ノートなどの製作



2. ステークホルダーの認知度向上

- ・新幹線京都駅企業看板
- ・各種スポーツ事業支援

- 「三菱ロジスネクスト 統合レポート 2023」を発行。長期的な当社のあり方に関する「**長期経営ビジョン2035**」を制定、「**売上高1兆円**」達成を目指す
- 同ビジョンの実現に向け、物流業界の現状とその先を見据えた当社の存在意義「**パーパス**」、及び新たな企業文化醸成の指針として、当社の「**重視する価値観**」を明示

物流を取り巻く市場環境の変化

物流業界の課題：

- 現場の安全性確保
- 労働力不足を補う自動化・自律化
- 気候変動対策としての脱炭素の実現



- 2035年には課題解決の重要性がさらに増大
- 一方、有人フォークリフトも一定の運用ニーズが続くと予想



当社が予想する将来の市場の動き：

- 自動化・自律化のための機器・設備等と、人の操作によるフォークリフトを「繋ぐ」ニーズの拡大
- 機器同士の連携、人と機器の協調、その前提にある安心・安全の確保に対する重要視

2035年に向けた「長期経営ビジョン2035」の制定

1. フォークリフト等の産業車両領域で脱炭素でより安心・安全な車両の提供
2. 「自動化・自律化」と「繋ぐ」ニーズに応える第2の事業の柱となる自動化・自律化機器の提供、ならびにそれらを繋ぎ、安心・安全に動かすためのソリューションの提供



【2035年 事業規模】 売上高 **1兆円**

パーパス

パイオニア精神とテクノロジーの力で物流の安全、自動化、脱炭素を実現し、世界の人々を笑顔にする

重視する価値観

働きがい：
一人ひとりが自律的に考え、失敗を恐れずトライ&エラーができて日々成長する

注意事項

- 本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料における将来予測に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
- 将来における弊社の業績が、現在の弊社の将来予測と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- 業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、弊社はその正確性、安全性を保証するものではありません。
- 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、弊社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

本資料に関するお問い合わせ

三菱ロジスネクスト株式会社 経営戦略室 苅屋・光行

〒617-8585 京都府長岡京市東神足2-1-1

TEL : 075-956-4419 FAX : 075-955-8993

URL : www.logisnext.com

Logisnext

三菱ロジスネクスト